

たび人のお守り





むかし むかし ある村に^{むら}
ソミン と コタン という兄弟が^{きょうだい}
くらしていました。

兄の^{あに} ソミンは まずしいけれど
心やさしい人だと^{こころ} ひと^{ひと} ひょうばんでした。

弟の^{おとうと} コタンは ゆうふくだけれど
いじわるな人だと^{ひと} おも^{おも} 思われていました。



ある日のこと。

コタンの りっぱな家いえに

みすぼらしい たび人びとが やってきました。

「あたしを ひとばん とめてください。」

「うちは まずしくて あなたを
とめられません。」

ほかの家いえを さがしてください。」

こま 困ったコタンは おもわず

うそを ついて しまいました。





その様子^{ようす}を^み見ていた ソミンは
たび人^{びと}を^{いえ}家に^いまねきました。

「ふるくて ^{ちい}小さな家 ^{いえ} ですが
ゆっくり していってください。」

ソミンは ^{びと}たび人に^い ごはんと ^いねるばしょを
よういして ^いあげました。

「ありがとう。あなたは ^{ほん}ほんとうに
^{こころ}心^{ひと}やさしい人だ。」

と ^{びと}たび人は ^{れい}お礼をいって
ソミンの家^{いえ}を ^{あと}あとにしました。



なんご
すう年後・・・
びと
たび人が ふたたび ぎょうだい むら
兄弟の村に やってきました。

こんどは まっすぐ ソミンの ^{いえ} 家にいき
おねがいました。

「また わたしを ひとばん とめてください。」

「どうぞ どうぞ。」

ソミンは こころよく ^{びと} たび人を
^{いえ} 家に とめました。





つぎの日の朝。

ソミンは たび人の すがたを見て びっくり！

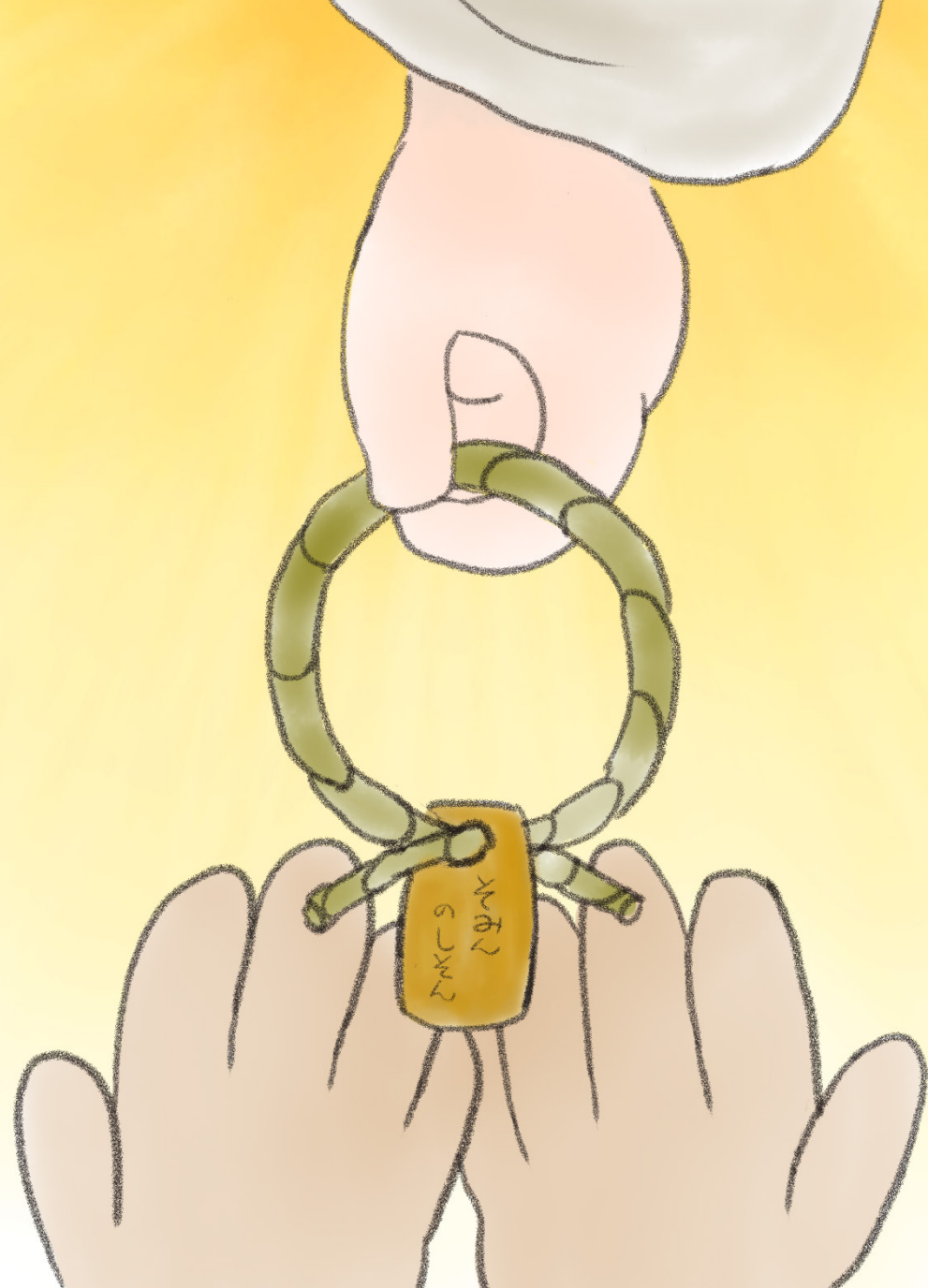
なんと たび人は 神さま だったのです。

「ソミンよ。お前は 見ずしらずの わしを
2度も 家にとめてくれた。

ほんとうに ありがとう。

そのお礼じゃ。」





びっくりした ソミンに ^{かみ}神さまが
^{まも}お守りを ^て手わたしました。

「これから ^{むら}村に ^{ひと}びょうきが はやり
たくさんの人 ^{ひと}が くるしむだろう。
でも このようにして 『ソミンのしそん』
とかいた ^{まも}お守りをつくって ^{まも}もっておれば
^{まえ}お前たちを ^{まも}守ってくれるじゃろう。」

ソミンは さっそく ^{まも}お守りを
つくり ^こ子どもたちに
もたせました。





それから しばらくして・・・
むら
村に びょうきが はやりました。

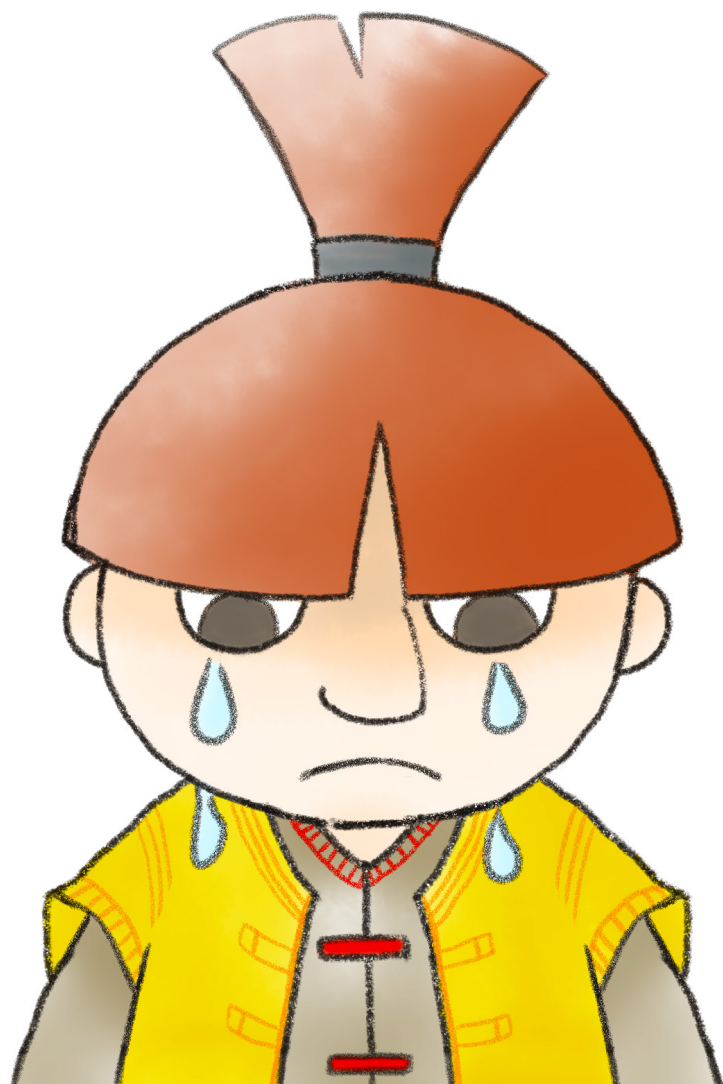
ソミンの かぞくは ^{げんき}元気でしたが
コタンの かぞくは つぎつぎに
びょうぎで ねこんで しまいました。

しんぱいした ソミンは
コタンの家^{いえ}に いきました。

そして ^{かみ}神さまに たすけてもらったことを
はなしました。

すると コタンは なみだを
ながして ^い言いました。





「ぼくは ^{びと} たび人を いじわるで
とめなかった わけではないんだ。
ただ ^し 知らない人を ^{ひと} 家に ^{いえ} 入れることが
こわかったんだ。」

「コタンの ^{きもち} 気持ちも わかるよ。
でも こわくても ^{あいて} 相手のことを
^し 知ろうとすることも たいせつだよ。」

と ソミンは ^い 言いました。



そして ソミンは ^{かみ}神さまから もらった
^{まも}お守りを コタンにも あたしました。

「この^{まも}お守りを つくって ^こ子どもたちに
もたせれば びょうきが よくなるはずだよ。
こまったときは たすけあおう。」

コタンは ^{おお}大きくなずき

「ありがとう。」

い
と言って こわくても ^{あいて}相手をうけいれる
ゆうきをもとうと ^{おも}思いました。



かみ
神さまから もらった
『ソミンのしそん』のお守りまもで
むら ひと
村の人たちの びょうきは
すっかり なおりました。

それから コタンは むら村のみんなと
たすけあって はたらくように になりました。
もう だれも コタンを ひといじめるな人とは
い言いません。

こうして みんなが たすけあい
えがおが あふれる むら村になりました。

おしまい。



このお話は、「蘇民将来」(『備後国風土記』)という昔話をもとにしたオリジナルストーリーです。

蘇民将来の伝説とは

旅人に快く宿を提供した蘇民将来やその子孫は末永く疫病などの厄を逃れて幸せに暮らしたという伝説です。
その伝説から、疫病退散を祈る祇園祭でも「蘇民将来」のお札が使われています。

の
し
そ
ん
も
の



そみんしょうらいじゅふもっかん
蘇民将来呪符木簡

これが お話にでてきた
お守りだよ!



そ
み
ん
し
ょ
う
ら
い

このお守りは、「長岡京」という千年以上前の都から発掘された日本最古のお守りです。

木簡と呼ばれる木の板に、「蘇民将来 之子孫者」と墨で文字が書かれています。
昔の人々も、疫病から身を守るために、このようなお守りを身に付けていたようです。

To the world full of smile.

笑顔あふれる世の中へ

今の世の中は、SNS を通じて多くの人とつながることができます。その中には自分と同じ考えの人も自分とは違う考えの人もいます。同じ考え同士は仲間意識を持ち団結できますが、違う考えに対しては過度に非難し、排除してしまうことがあります。

それぞれの考えや行動には理由があり、自分の考えがすべての人にとって正しい訳ではありません。大切なことは「相手を知ること」と「違いを認めること」です。この絵本で、ソミンは旅人を家に泊める心やさしいことをしました。コタンは旅人を家に泊めませんでした。ソミンはコタンの話を聞き、その考えに共感し、救いの手を差し伸べました。相手を知り、互いに認め合うことで兄弟や村人は助け合い、笑顔あふれる村になりました。

SNS で多くの人とつながることができる今だからこそ、『たび人のお守り』を子供たちに読んでもらい、互いを認めて助け合う、笑顔あふれる世の中になればと思います。

さがしてみよう

たけとんクエスト

えほんの中に たけとんが
5ひき かくれているよ。
きみは みつけられたかな?



長岡京市人権キャラクター
たけとん

発行 長岡京市教育委員会

〒617-0801 京都府長岡京市開田一丁目1番1号
電話 075-951-2121 (代表) FAX 075-951-5410 (代表)

